

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(海)甲第244号	氏名	松田和生
学位審査委員	主査 副査 副査 副査 副査	宮原未治 竹村暘 黒田英夫 石松隆和 松永昭一	
<p>・ 論文審査の結果の要旨</p> <p>松田和生氏は、昭和55年3月九州大学工学部を卒業し、同年4月に九州大学大学院修士課程電子工学専攻に入学した。その後、昭和57年3月に九州大学大学院修士課程を修了し、同年4月に三菱重工業株式会社に採用され、平成11年4月に長崎大学大学院海洋生産科学研究科に入学し、現在に至っている。</p> <p>同氏は、長崎大学大学院に入学以前から、船舶を操縦・制御するための航海支援システムの研究と開発に従事してきている。そして、入学以降は「音声を用いた航海支援システムのユーザインタフェースとヒューマンエラーに関する研究」に従事し、現在までに3編の論文を発表している。その成果を平成16年12月に主論文「音声を利用した航海支援システムの構成法に関する研究」として完成させ、参考論文3編を添えて、長崎大学大学院海洋生産科学研究科委員会に博士(工学)の学位を申請した。</p> <p>長崎大学大学院海洋生産科学研究科委員会は、平成16年12月の定例委員会において論文内容の要旨を検討し、本論文を受理して差し支えないものと認め、上記の通り審査委員会を選定した。学位審査委員は主査を中心に論文内容について慎重に審議し、公開論文発表会を行なわせるとともに、口頭による最終試験を行ない、論文の審査及び最終試験の結果を平成17年2月17日研究科委員会に報告した。</p> <p>提出論文は、船舶に用いる航海支援システムの構成に関する新しい試みの一つとして、音声認識と音声合成を用いた操作性に優れたユーザインタフェースを提供する航海支援システムに関するもので、航海当直1名体制を実現しつつ、航海当直員の負担を大幅に軽減して余裕を創出する事により、航行の安全性を確保するものであり、音声利用の航海支援システムの有効性を実証したものである。</p> <p>以上のように、本論文は、情報分野の発展に貢献すること大であり、博士(工学)の学位に値するものと判断した。</p>			